

# 地域おこし協力隊 活動記 Vol.118

雪の季節になりました。昨季のような記録的な豪雪はゴメンですが、まったく降らないのも相馬の冬らしくなくて残念な気がします。

とくに、相馬の冬の風物詩「沢田ろっそくまつり」は雪があつてこそ、という側面もあるので、ある程度の積雪はほしいところ。今回は暦の都合上、3月3日と遅めの開催になるので、雪のないまつりになる可能性もありません。せめて参道のろっそくの灯りが映える程度には雪が残っていてほしいものです。

知る人ぞ知る奇習の「沢田ろっそくまつり」ですが、関心のある人は地域外にも少なくありません。去る10月12日(日)、「相馬歴史探訪日帰りバスツアー」なる旅行企画を実施しました。15名の定員に対して多くの方から申し込みがあり、結局、参加者は1名オーバーの16名。最初に訪れたのが、「ろっそくまつり」が行われる沢田神明宮です。

今年は相馬地区でもクマの出没が増えていることもあって、当初は斜面の麓にある鳥居の前だけで見学を終える予定だったのですが、参加者の皆さんが「お社まで登りたい」と強く希望されたので、「では希望者だけで」と急斜面を登りました。ツアーの性質上、年配の方が多かったにもかかわらず、結局、参加者全員が登ら



沢田神明宮では米沢宮司がガイド役を務めてくれた

れ、なかには杖をつきながら懸命に登られる方も。それだけ関心を持ってもらえるのは、わたし(加賀)もうれしいですし、同時に、相馬には「ウリ」となる地域資源があるのだと確信したものです。ちなみに、16名の参加者のうち6名が市外の方で、遠くは埼玉県、宮城県から来られた方もいらっしゃいました。

相馬の地域資源は、「沢田ろっそくまつり」だけではありません。世界に誇る「飛馬りんご」をはじめとした農作物、水と緑、そして満天の星空といった豊かな環境、今に残る数々の史跡や伝承……。先



メノコ石塚伝説が残る石戸神社(湯口)も訪れた

史時代から紡いできた歴史、そして人々が築いてきた相馬ならではの資源は地域の宝にほかなりません。  
これらの地域資源をもっともつと活用していけるように取り組んでいければと思っています。とかく厄介者扱いされる雪もまた、北国ならではの、貴重な資源にできるかもしれません。休業した「星と森のロマンティア」も、なんとか知恵を絞って新たな活用法を考え、再び相馬を代表する資源として生まれ変わらせたものです。

